

宇陀を駆けた人々

「伊能忠敬」
いのうただか

2

悠久の歴史を刻んできた宇陀。古代から現代まで多くの人々が宇陀を駆けぬけてきました。神話や伝説の世界の人々、実在の人々、宇陀の歴史に欠くことのできない人々をご紹介します。

髭無村で天体観測

ひげなしむら

伊能忠敬は、測量日記（測量記録）を残しています。この日記には、天候、作業の内容、宿泊地、訪問した名所旧跡、送迎・案内などを行ってくれた諸藩の役人・町村宿場役人の名前などが記されています。

宇陀が登場する行程を見てみましょう。文化5年（1808）1月25日、第6次伊能忠敬測量隊は、江戸を出発します。東海道を西へと進み、京都、大坂を経て、淡路島、四国各国を巡ります。

11月28日には、河内から大和入りです。現在の斑鳩町、王寺町、葛城市、大和郡山市、奈良市、天理市、桜井市、明日香村、吉野町、大淀町、高取町、桜井市を巡っています。測量日記には、大和路を測りながら、有名な杜寺にも参拝していることが記されています。

12月21日には、長谷寺に参詣し、翌22日は、宇陀へと進み、髭無村の塗屋文蔵・三木屋清右衛門宅に泊まっています。その後、伊賀上野、松坂、伊勢

を経て、江戸には、文化6年1月18日に戻り、四国や大和の測量調査を目的とした約1年間の長旅を終えています。

忠敬らが泊まった「髭無村」では、天文観測を行っています。北極星は、ほぼ真北にあつてほとんど動かない二等星で、その高度は緯度（北緯）と同じであるため、象限儀（しやうげんぎ、天体の高度を測定する道具）を使って北極星の高度から観測地点の緯度を測定しています。昼には地面を測り、夜には天体観測を行って各地の緯度も測定し、当時は不明確であった緯度1度の距離をほぼ正確に求めています。この「髭無村」は、どのあたりにあったのでしょうか。



文・柳澤一宏（文化財課）



このマークを見かけたら!?

これらのマークをご存知でしょうか？

身体や心に障がいを持っている人、高齢のため身体が思うように動かなかつたり、その理由はさまざまですが、見た目にそれが分からないために、誤解されたり、不利益を受けたり、危険にさらされたりするなど、多くの不便もあります。

そんな時、まわりの人が少しでも助けになることができれば、その人は安心して次の行動に移れます。しかし、その人にどういった助けが要するのか、わかりにくいケースが多いため、関係機関が、どんな状況で、どんな助けが必要なのか、ひと目見てわかるようにマークを作成し、周知に努めています。これらのマークを見かけたら、その方への配慮について、ご理解とご協力をお願いいたします。

【ほじょ犬マーク】
身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。補助犬はペットです。



【身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。補助犬はペットです。】

はなく、社会的なマナーも訓練され、衛生面でも管理されており、体の不自由な方の体の一部となつて働いています。

【マタニティマーク】



妊娠時、特に初期は母子ともに大切な時期です。このマークを付けているお母さんを見かけたら、喫煙の遠慮や座席をゆずるなど思いやりのある気遣いをお願いします。

【介護マーク】



介護する方が介護中であることのマークです。在宅介護を支援する取り組みとして、周知されています。外出先で見かけた場合は、あたたかく見守ってください。

【身体障害者標識】・【聴覚障害者標識】
肢体不自由や聴覚障害であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。



【身体障害者標識】
肢体不自由や聴覚障害であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。